

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和7年度1月号

○ 概要

- (1) 令和7年度1月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,219億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,101円（伸び率+5.8%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,931億円（伸び率+0.2%）、薬剤料が5,274億円（伸び率+4.5%）、薬剤料のうち、後発医薬品が991億円（伸び率▲3.2%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,607円（伸び率+5.1%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.86種類（伸び率+0.1%）、28.2日（伸び率+5.2%）、70円（伸び率▲0.1%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,007億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+103億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の758億円（伸び幅+19億円）で、伸び幅が最も高かったのは21 循環器官用薬の+55億円（総額592億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,007 億円 (+103 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(758 億円)	21 循環器官用薬 (592 億円)	42 腫瘍用薬 (578 億円)
0歳以上 5歳未満	15.8 億円 (▲1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	61 抗生物質製剤 (1.9 億円)
5歳以上 15歳未満	110.3 億円 (+10.3 億円)	44 アレルギー用薬 (31.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (29.8 億円)	62 化学療法剤 (13.9 億円)
15歳以上 65歳未満	1,544 億円 (+52 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(290 億円)	11 中枢神経系用薬 (285 億円)	42 腫瘍用薬 (195 億円)
65歳以上 75歳未満	771 億円 (▲9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(172 億円)	42 腫瘍用薬 (148 億円)	21 循環器官用薬 (127 億円)
75歳以上	1,567 億円 (+52 億円)	21 循環器官用薬 (287 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(286 億円)	42 腫瘍用薬 (232 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,101円（伸び率+5.8%）で、最も高かったのは北海道（12,151円（伸び率+6.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,804円（伸び率+5.2%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは石川県（伸び率+10.9%）、最も低かったのは大阪府（伸び率+4.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.5 %	+1.0 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	73.9 %	▲1.9 %
後発品調剤率	81.9 %	▲2.0 %

注1) [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

注2) [後発医薬品の薬剤料] / ([後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料] + [後発医薬品の薬剤料]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.2 %	+3.0 % (75歳以上 80歳未満)	▲8.5 % (80歳以上 85歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	73.9 %	84.2 % (100歳以上)	66.7 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.5 %	94.7 % (0歳以上 5歳未満)	90.5 % (80歳以上 85歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	839 億円 (▲23 億円)	21 循環器官用薬 (249 億円)	11 中枢神経系用薬 (147 億円)	23 消化器官用薬 (90 億円)
0歳以上 5歳未満	6.5 億円 (▲0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	62 化学療法剤 (0.7 億円)
5歳以上 15歳未満	18.5 億円 (▲1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (10.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)
15歳以上 65歳未満	300 億円 (▲10 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (70 億円)	44 アレルギー用薬 (36 億円)
65歳以上 75歳未満	162 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (59 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(20 億円)
75歳以上	352 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (119 億円)	11 中枢神経系用薬 (54 億円)	23 消化器官用薬 (46 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,386 円	1,783 円(北海道)	1,175 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.9%	+3.1 % (鳥取県)	▲2.7 % (大阪府)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.5 %	94.5 % (沖縄県)	89.2 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	73.9 %	78.4 % (島根県)	68.5 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	81.9 %	84.9 % (秋田県)	78.9 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。